

# ドイツ短期留学レポート

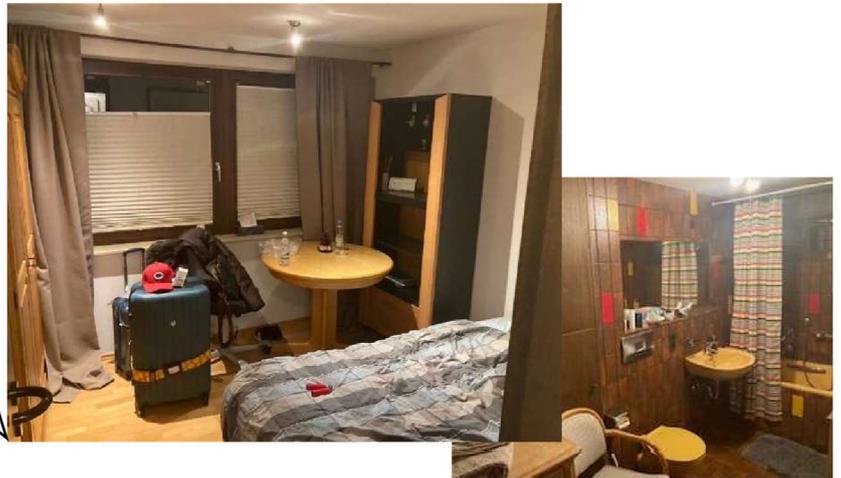


私は、江南ライオンズクラブ様よりドイツに派遣していただきました高校2年の高(高)高(高)です。派遣先はドイツの南部に位置するラーベンスブルグというところで、ミュンヘン空港から車で2時間ほどの落ち着いた町でした。ホストファミリーはお父さん、お母さん、兄弟2人で家族みんなとても仲が良いのが印象的でした。

これは到着した日に空港まで迎えに来てもらい、家に向かう途中に寄ったレストランでの写真です。クリスマス前ということもあり、イルミネーションで飾り付けられた店内の雰囲気も最高で、料理も美味しかったです。



こちらは、私のために用意してもらった部屋です。専用のバスルームもあり、とても快適に過ごすことができました。洗濯は家の洗濯機を自由に使ってよいと言われたので、3~4日に一度して乾燥機は使わずに部屋干しをしました。到着後数日は乾燥によるのどの痛みがあり困りました。



こちらは朝食です。私が驚いたのは、ドイツでは朝食をしっかり食べることです。ドイツで有名なプレッツェルと黒パンです。塩がかかっていて、割って好みにジャムやバターをつけて食べます。左の写真は家の中に飾られていた生のもみの木です。

家から車で少し走ると素敵な建物があったり、週末にはフードマーケットが開催されており、にぎやかでした。ホストマザーは頻繁に町のパン屋さんでプレッツェルや黒パンを購入していました。





ドイツといえば本場「クリスマスマーケット」が有名ですが、食べ物や雑貨などが売られている小屋がいくつもあり、夜だけでなく昼間も開催しています。私はこのマーケットに3回連れて行ってもらいました。夜は大きなもみの木がライトアップされており、とても素敵な雰囲気でした。ヘーゼルナッツのお菓子が有名で買ってもらいました。また、ホストマザーの実家へ行き、おばあちゃん手作りのお菓子をみんなで食べました。クリスマスイブは家でご飯を食べ、ツリーの下においたプレゼントを順番に開けていきました。兄弟からお父さんへクルーズ旅行をプレゼントして、お父さんがとても喜んでいたので印象的で、とても仲のよい家族だなあと感動しました。

2025年ニューイヤーの幕開けは、ホストファミリーの上のお兄ちゃんの友達が6~7人家に遊びに来て、ピザを食べたり、ゲームをしたり踊ったりして盛り上がりました。新年が明けた後は、庭に出て自分たちで打ち上げ花火を上げます。驚いたことに近所でも同じように花火が打ち上げられているので、あたり一面けむりでいっぱいでした。お兄ちゃんの友達（私の上にいる）がドイツのおすすめの食べ物や場所について色々話してくれてとても楽しかったです。



家から1時間くらい車で行ったところにオーストリアとスイスの国境にあるロッハスというところに連れて行ってもらいました。眼下に雲海がひろがり爽快な眺めでした。この他にポルシェの博物館、気球の博物館やバンクシーの家展にも連れて行ってもらいました。

地元のホッケーチーム「タワースターズ」のホームリンクが車で10分ほどのところにあり、アイスホッケーの試合観戦に4回も連れて行ってもらいました。会場は毎回満員でファンの熱狂ぶりはものすごく、とても楽しかったです。





英語が母国語ではないドイツでも、若い人を含めほとんどの人が英語を話すことができることにとても驚きました。

私のホストファミリーは特に、お父さんは自動車関係の仕事で海外に行く機会が多かったり、お兄ちゃん達はアメリカ人など海外の人達とゲームで繋がっている所以英語力が高いのかもしれない。私は小さい時に父の仕事でアメリカで生活し、帰国後も英語の勉強を続け現在は高校の国際教養科に在籍しています。今回初めて親元を離れ、久しぶりに生の英語に触れ、自分の英語力がどこまで通用するのかということを経験して自信にも繋がった面と、足りない部分も知り、もっとコミュニケーション力を高めることはより多くの人達と繋がることができるということを身をもって体感することができました。今後、この経験を活かし、国際社会で活躍できるよう、どんどん新しいことにもチャレンジし、さらに新しい視野を広げていきたいです。

この度は、このような貴重な経験をさせてくださったライオンズクラブの皆様、羽田空港までの送迎をしてくださった加藤さん、出国帰国のサポートをしてくれた旅行会社の方、快く送り出してくれた家族、多くの方々のお陰です。本当にありがとうございました。

そして、派遣期間も25日間と長く私を受け入れてくれ、優しく接してくれたホストファミリーとの出会いは私の一生の宝物です。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

#### <今回の研修の出発前の準備において>

事前に、未成年の私がドイツ入国時には、必ずではないが「保護者による渡航同意書」が必要であると聞いていたので、両親に準備してもらいました。書式はインターネット上にあり、そこに必要事項を記入し、両親のパスポートのコピーを添付し持参しました。結論からいうと、ドイツ入国は英語が通じるので、コミュニケーションが取れば渡航同意書を見せることなく、問題なく入国できました。ただ、出国時には滞在場所や理由を聞かれ、この渡航同意書を係の人に見せたら「あなた一人で来たの？クレイジーね！」と冗談を言われて通過することができました。なので、渡航同意書は準備しておいたほうが良いと感じました。

冬の時期にドイツに来る際は、最低気温が氷点下になることが多く、雪が積もっているところを観光などで訪れる可能性もあるので、雪靴を一つ持って行ってもいいかもしれません。私は持っていなかったの所以お兄ちゃんの靴を貸してもらいました。帽子、手袋は必須ですが、現地の人たちは意外と手袋やマフラーなしであったりします。部屋の中は暖かいので、その点を考慮して洋服の準備をするとよいでしょう。